

カマド状遺構の集成と今後の研究課題について

茅野嘉雄

はじめに

筆者は、平成18年度に青森市宮田地区に所在する米山(2)遺跡を調査する機会を得た。米山(2)遺跡は青森県新総合運動公園建設区域内に所在する遺跡であり、周辺には宮田館遺跡・山下遺跡・上野尻遺跡などの縄文時代～近世の遺跡が存在する。筆者が調査に携わる以前から、本遺跡周辺では中世のカマド状遺構が多数発見されており、井戸跡や竪穴遺構、掘立柱建物跡、土坑墓などの遺構と共に、青森県では珍しい城館以外の中世遺跡の調査例となっている。本稿は、米山(2)遺跡を特徴付ける遺構であるカマド状遺構について、県内外の遺跡から発見された例を集めて、今後の研究課題を提示することを目的とする。

1、カマド状遺構をめぐる研究略史

表1には、カマド状遺構を検出した遺跡と検出数などをあげ、図1にはその分布状況を示した。集成に関しては、北東北3県については、おおむね網羅できたかと思われるが、南東北3県については、当初想定しておらず、集成作業に遗漏がある可能性があることをお断りしておく。この表と図には筆者なりの観点で集成した結果を記したため、一般的に言われているカマド状遺構以外の遺構もリストアップされている。集成の結果、東北地方の6県(青森・秋田・岩手・山形・宮城、福島)の、57遺跡からカマド状遺構が集成された。

カマド状遺構の発掘調査による初見は青森県五所川原市原子溜池遺跡E地点だと思われる(青森県1974)。原子溜池遺跡では、野鍛冶場とされた地点付近に、カマド状遺構と思しき遺構の図面が見られる(図2)。確実にカマド状遺構として捉えられたものは、浅瀬石遺跡(青森県1976)が初見である。昭和50年代前半には、東北縦貫自動車道に伴う発掘調査の増加により、主に城館跡などから類似する遺構が北東北で増え始める。当初当該遺構には、焼土遺構という呼称が使われていた。当該遺構にカマドという言葉が始めて用いられたのは北館遺跡(岩手県1980)である。この報告書では、竈遺構という記述を行い、当該遺構が屋外に構築されたカマドである可能性を示唆している。また、同年に発刊された柳田館(岩手県1980)では、当該遺構がまとまって検出されている。カマド状遺構という呼称は秋田県竹生遺跡(秋田県1981)で始めて使用された。それにならうように岩手県高玉遺跡(岩埋文1985)・青森県根城本丸跡(八戸市1983)などで相次いで使用され、現在に至るまで、当該遺構については、おおむねカマド状遺構(一部かまど遺構・屋外かまど・かまど跡という呼称もある)という呼称が用いられているようである(焼土遺構あるいは土坑の扱いで報告されている例も散見される)。これらの呼称からわかるとおり、当該遺構は中近世の屋外に設置されたカマドであるという想定がなされている。これについては青森県弘前市境関館跡の報告によるところが大きい(青森県1987)。境関館跡からは、129基ものカマド状遺構(報告ではかまど遺構と呼称)が検出された。検出数もさることながら、多くの面で当該以降の研究に影響を与えた。存在時期については、多数の遺構との重複関係

県名	遺跡名	発刊	集	所在地	時期	遺構の呼称	分類と数量	遺構の用途	性格	年代測定
青森県	赤御堂遺跡	1989	八 33集	八戸市	中世～近世	がれき状遺構	A . 墓 . D . 墓 E . 墓	不明		-
青森県	浅瀬石	1976	青県 26	黒石市	中世？	焼土遺構	B . 2墓	不明	城館？	-
青森県	内真部(4)	1994	青県 158	青森市	中世(12後～14～15C)	かまと状遺構	A . 墓 E . 墓	不明	城館に關係する集落？	-
青森県	貝ノ口遺跡	1996	七 15集	七戸町	中世	がれき状遺構	E . 1墓	不明	城館	-
青森県	貝ノ口遺跡	1998	七 2集	七戸町	中世	がれき状遺構	E . 墓	不明	城館	-
青森県	鞍越遺跡	1996		川内町	中世	がれき状遺構	B . 墓 磁使用)	不明	城館	-
青森県	高野川(2)	1993	青県 153	川内町	14～15C	かまと状遺構	E . 墓 磁使用)	不明	集落？	-
青森県	境閣館	1987	青県 102	弘前市	12後～14～15C	かまと状遺構	A . 2墓 B . 2墓 D . 4墓 E . 7墓	不明	城館	-
青森県	三内沢部(3)	2008	青県 458	青森市	(14～15C)	がれき状遺構	E . 5墓	不明	集落？	有り
青森県	七戸城北館	1996	七 1集	七戸町	中世	がれき状遺構	E . 墓	不明	城館	-
青森県	七戸城北館	2003	七 4集	七戸町	中世	がれき状遺構	E . 墓	不明	城館	-
青森県	大光寺新城跡	1990	平賀 19	平賀町	(15～16C)	溶鉛炉跡	C . 墓	小鎌治炉跡？	城館	-
青森県	大光寺新城跡	1999	平賀 24	平賀町	(15～16C)	焼土遺構	C . 12墓	小鎌治炉跡？	城館	-
青森県	大光寺新城跡	1999	平賀 26	平賀町	(15～16C)	小鎌治炉跡	C . 14墓	小鎌治炉跡？	城館	-
青森県	大光寺新城跡	2000	平賀 27	平賀町	(15～16C)	小鎌治炉跡	C . 4墓	小鎌治炉跡？	城館	-
青森県	大光寺新城跡	2001	平賀 29	平賀町	(15～16C)	小鎌治炉跡	C . 墓	小鎌治炉跡？	城館	-
青森県	田名部館跡	1997	青県 214	むつ市	中世	焼土遺構	C . 墓 E . 墓	小鎌治炉跡？		-
青森県	種里城跡	1998	鰺ヶ沢町	中世	がれき・地床炉	A . 墓 E . 墓	不明	城館	-	
青森県	富山遺跡	1975	青県 2集		中世	焼土遺構(F3)	D . 墓	不明		-
青森県	中市館跡	2005	五戸 6集	五戸町	中世	SX	A . 墓	不明	城館	-
青森県	中崎館	1989	青県 129	弘前市	中世	焼土遺構	E . 墓 D 1墓	不明		-
青森県	浪岡城跡	1981		浪岡町	中世	焼土遺構	B ?	不明	城館	-
青森県	浪岡城跡	1986		浪岡町	中世	焼土遺構	B ?	不明	城館	-
青森県	根城岡前館 35	1996	八市 65	八戸市	中世～近世	がれき状遺構	不明	不明	城館	-
青森県	根城下町	1996	八市 65	八戸市	中世～近世	がれき状遺構	E . 墓	不明	城館	-
青森県	根城本丸	1983	八市 11	八戸市	中世～近世	がれき状遺構	A . 墓 D . 墓 E . 墓	不明	城館	-
青森県	羽黒平(1)	1995	青県 170	浪岡町	中世？	土坑(がれき状遺構と付記)	A . 墓 E . 墓	不明	集落？	-
青森県	浜尻屋遺跡	2004		東通村		がれき状遺構	B . 5墓 磁組み)	不明	干しアヒ生産遺跡	-
青森県	原子溜池B地点	1974	青県 13集	五所川原市	時期不明	野鍛冶場跡？	B . 墓	鉄生産に関連？		-
青森県	前川	1991		田舎館村	中世？	屋外 がれき	A . 墓	不明	集落？	-
青森県	水木館	1995	青県 173	常磐村	中世	かまと状遺構	E . 墓	不明	城館？	-
青森県	宮田館	2002	青県 322	青森市	13後～15C	がれき状遺構	B . 墓 磁使用) E . 墓	不明	城館に關係する集落？	有り
青森県	宮田館	2003	青県 344	青森市	13後～15C	がれき状遺構	E . 墓	不明	城館に關係する集落？	-
青森県	山下	2000	青県 274	青森市	13～15C	がれき状遺構	A . 墓 E . 1墓	不明	城館に關係する集落？	-
青森県	米山(2)	2003	青県 344	青森市	13～15C	がれき状遺構	A . 墓 E . 15墓	不明	城館に關係する集落？	有り
青森県	米山(2)	2007	青県 433	青森市	13～15C	がれき状遺構	A . 1墓 D . 墓 E . 2墓	不明	城館に關係する集落？	有り
青森県	米山(2)	2008	青県 456	青森市	13～15C	がれき状遺構 . 58	A . 4墓 D . 2墓 E . 13墓	不明	城館に關係する集落？	-
秋田県	石鳥谷館	1998	秋県 279	鹿角市	13世紀中	焼土遺構	D ? 4墓	不明	城館	有り
秋田県	餉約	1991	秋県 210	大館市	不明	焼土遺構	A . 墓 D . 墓 E . 墓	不明	城館	-
秋田県	北	2001	秋県 315	五城目町	?	焼土遺構	E . 墓	不明	集落？	-
秋田県	下多野	1979	秋田	秋田市	古代末～中世	土坑	E . 墓	不明	集落？	-
秋田県	竹生	1981	秋県 83	能代市		がれき状遺構	A . 4墓 E . 1墓	焼成遺構？	集落？	-
秋田県	塚の下	1979	秋県 61	大館市	不明	焼土遺構	A . 墓	不明	不明	-
秋田県	妻の神	1984	秋県 108	鹿角市	中世	焼土遺構	A . 墓 E . 墓	不明	城館	-
秋田県	当麻館跡	1989	角魚 37	鹿角市	中世	焼土状遺構	A . 墓 E . 1墓	不明	城館	-
秋田県	乳牛平	1984	秋県 107	鹿角市	中世	焼土遺構	E . 50墓	不明	城館	-
秋田県	竜毛沢館跡	1990	秋県 188	二ツ井町	中世	焼土遺構	E . 墓	不明	城館	-
岩手県	泉屋(16～19・21次)	2003	岩理 399	平泉町	中近世？	がれき状遺構(SX)	A . 墓 E . 3墓	不明	集落？	-
岩手県	一戸城	1981	一戸町	中世	焼土遺構	D . 墓	不明	城館	-	
岩手県	大瀬川C	1981	岩教 57	石鳥谷町	不明	焼土遺構(龜状)	A . 墓 E . 墓	不明	城館	-
岩手県	大日向	1986	岩埋 100	軽米町	中近世？	カマド跡	E . 墓	不明	不明	-
岩手県	北館	1980	岩教 54	平泉町	中世？	龜遺構	A . 墓	不明	城館	-
岩手県	浄法寺城跡	2004	浄法寺町	浄法寺町	13世紀台	がれき状遺構(SSX)	D . 墓	不明	城館	有り
岩手県	台太郎(18次)	2001	岩埋 369	盛岡市	中世～	がれき状遺構(RF-RZ)	A . 墓 E . 墓	不明	集落？	-
岩手県	高木中館	2006	岩埋 471	花巻市	中世？	がれき状遺構(SX02)	D . 墓	不明	集落？	-
岩手県	高玉	1985	岩埋 93	平泉町	中近世？	がれき状遺構	A . 墓 D . 墓 E . 1墓	不明	屋敷跡？	-
岩手県	中半入(4次)	2005	岩埋 465	水沢市	古代末～中世？	がれき状遺構(SX102)	D . 墓	不明	集落？	-
岩手県	西長岡長谷田	1999	岩教 105	紫波町	中世～	弓燒土	A . 墓	不明	不明	-
岩手県	西前田	1999	岩教 105	江刺市	中世～	弓土坑	E . 墓	不明	不明	-
岩手県	細谷地(4・5次)	2003	岩埋 414	盛岡市	中世	がれき状遺構(RZ)	A . 墓	不明	集落？	-
岩手県	万丁目	1986	岩埋 102	花巻市	中世～近世？	がれき状遺構	E . 墓	不明	集落？	-
岩手県	毛越	1994	平泉 40	平泉町	古代末～中世？	かまと跡	D . 墓	不明	集落？	-
岩手県	柳田館跡	1980	岩教 53	紫波町	16世紀？	焼土遺構	A . 墓 D . 墓 E . 1墓	不明	城館	-
福島県	大鍋館	2005		郡山市	13～16世紀	焼土遺構	D . 墓	工房跡に付随？	城館	-
宮城県	鴻ノ巣	1981	仙台市 32	仙台市	古代末～中世	焼土遺構	E . 墓	不明	屋敷跡？	-
宮城県	中野高柳	2003	宮県 201	仙台市	11C～	SX	D ? 墓	不明	屋敷跡？	-
宮城県	新田	1990	多賀城市 23集	多賀城市	12～14世紀	焼土遺構(SX)	E ? 墓	不明		-
山形県	上敷免	2007	山県 159	山形市	12～13世紀	がれき状遺構	D . 墓	不明	在地領主居館跡？	-
山形県	高瀬山(SA)	2001	山県 94	塞河江市	12～13世紀	がれき状遺構	D . 墓	不明	集落？	-

市町村名は平成の大合併以前のものを記載した

表1 カマド状遺構検出遺跡一覧

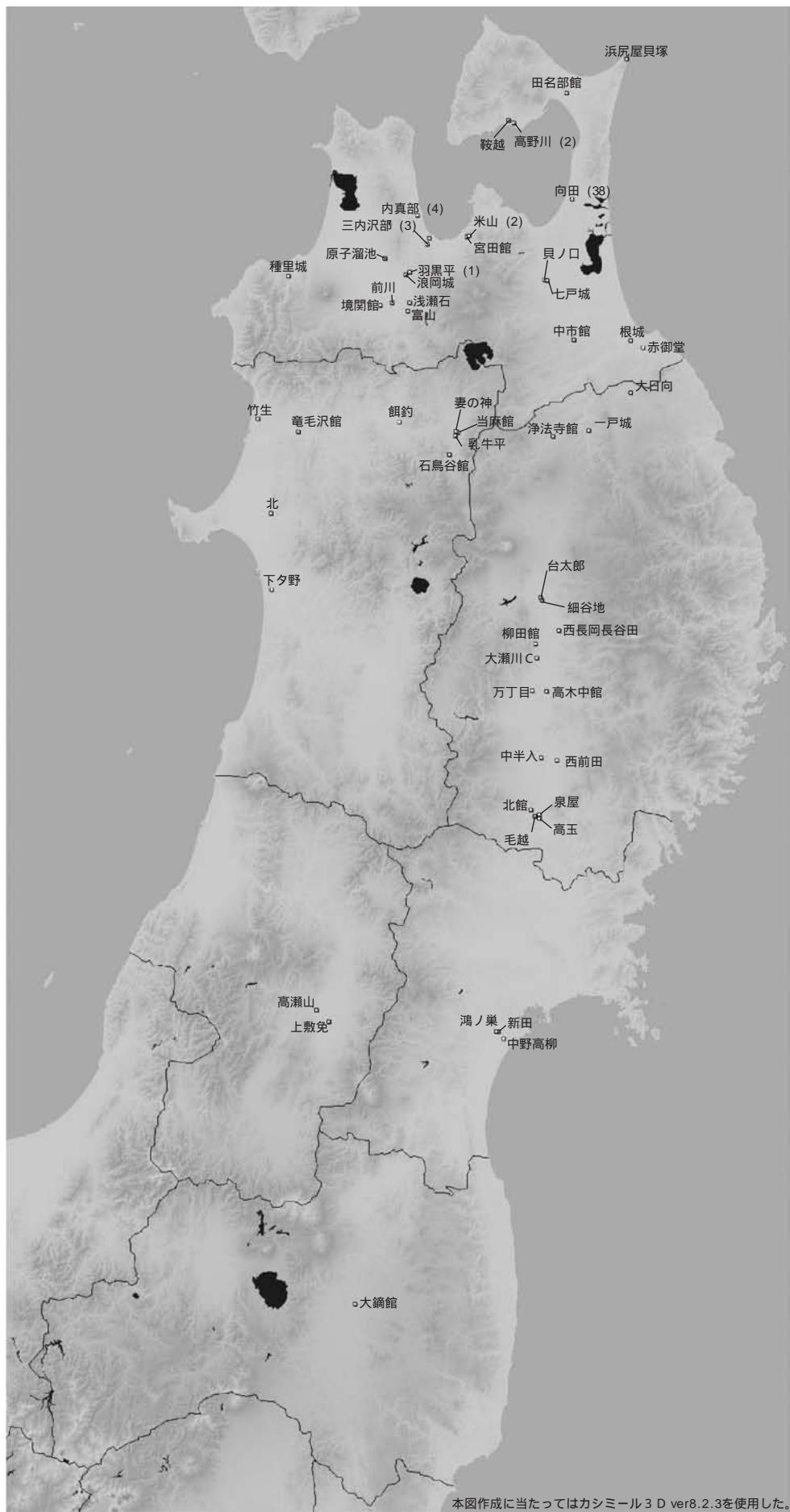


図1 カマド状遺構出土遺跡分布図

から、ほぼ中世に収まるということが判明した。構造の面では残存状況の良い例が複数あったことから、秋田県乳牛平遺跡や妻の神 遺跡などで課題とされていた燃焼部天井の構造などの詳細な検討がなされた。また、用途・機能面でも、屋外の竈である可能性が高いとしている（三浦圭介 1987）。境関館跡の報告後、カマド状遺構の研究は一端落ち着きを見せる。検出例がまとまる遺跡が少なかったこともあるが、三浦による用途論のインパクトが強かったことも大いにあると考えられる。その中で、近年カマド状遺構の用途に関する言及が見られるようになった。佐々木浩一らは、城館跡の掘立柱建物跡の再検討作業を進める中で境関館跡の性格とカマド状遺構の用途について触れている（佐々木浩一ほか 1999）。佐々木らは境関館跡を平川に面した水運の要所に立地した城館とし、多数発見されたカマド状遺構は金属製品を加工するための遺構としている。しかし、その根拠は明確には示されていない。川口潤は、米山（2）遺跡第2次調査の報告においてカマド状遺構の用途について触れている（川口潤 2003）。川口は遺構の構造の検討から、当該遺構を煮沸と灰獲得に特化した機能を持つものと考え、獲得した灰の用途の推論や、自然科学的分析結果を用い、カマド状遺構は麻を蒸す遺構であるとした。また、蒸した麻から纖維をとったり、燃焼部から得られた灰を染色などに利用したことも想定し、今後の調査のあり方に注意を喚起している。

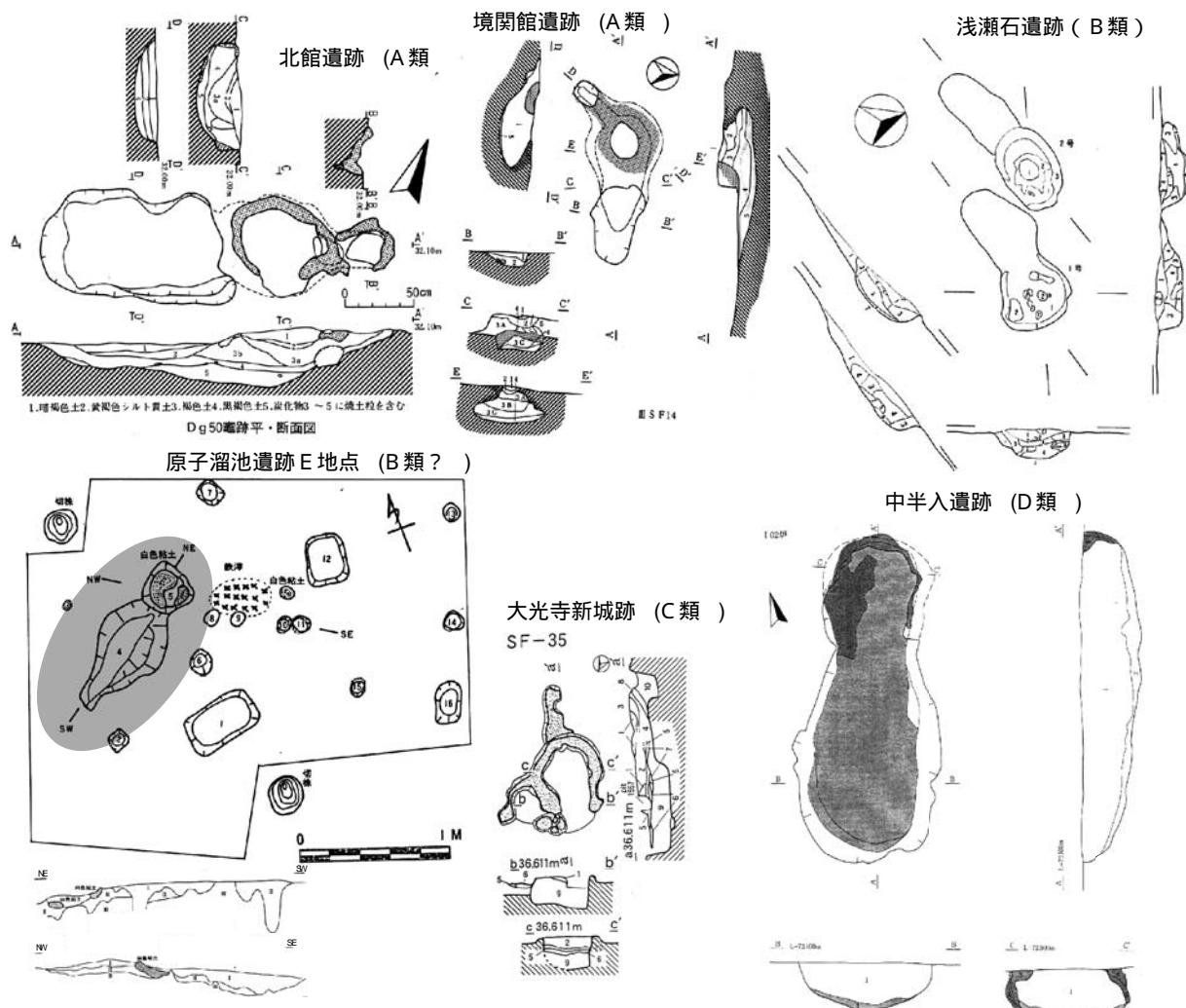


図2 主な遺跡のカマド状遺構(縮尺不同)

このように、カマド状遺構に関する研究史は、特に用途に関する議論がここ数年にわかつて浮上しつつある。しかし、時間的・空間的な広がりや、遺跡内における位置づけなど、ややあろそかになっている面も多いのが現状である。

2. カマド状遺構の構造と出土遺物について

カマド状遺構の構造については、境関館跡報告の三浦圭介による検討が基本となっているため、以下に要点をまとめる。全体構成：焚口部・燃焼部・煙道部の三要素で構成される。焚口部：平面隅丸長方形状で、燃焼部との接点から焚口尻に向かい緩傾斜して上る。燃焼部：地山を掘り抜いて焚口と開口部を作出するもの（筆者分類のA類）と燃焼室を土坑状に掘り込んだ後粘土等を用いて開口部と焚口部を構築するもの（筆者分類のB類）の2者が存在するということである。燃焼室底面は皿状に凹み、壁面は開口部に向かい内傾しながら立ち上がる。燃焼室の被熱度合いは底面よりも側壁、側壁よりも開口部の方がより激しく焼けており、底面の被熱状況はそれほどでもない。煙道部：燃焼室内底面付近から外部へと緩傾斜しながらトンネル状に割りぬかれる。煙道は直径15cm程で、長さ40cm程と細く短い。煙道壁面は被熱している例が多い。出土遺物：陶磁器・鉄製品・錢貨などが出土地しているが、遺構の機能とは直接関係無い。燃焼室底面からは1~5cmの厚さで粉状の炭化物の堆積が見られるため、使用時の燃料としては稻藁や薪などが想定されている。また、数が多く出土する理由としては、存続期間の長さ（13世紀～16世紀を想定）と、軟弱素材を使用したため再構築がたびたび必要であったためとしている。以上が三浦1987における構造の検討結果である。筆者が担当した米山（2）遺跡でもほぼ同様の構造が確認できたが、粘土を使用しているか否か（半地下式かどうか）の判断は慎重にならざるを得なかった。筆者は、この分類を基本としつつ以下のようないくつかの基準を提示する（図3）。また、当該遺構を集成する際には、「長軸円形の浅い掘り込みを持ち、長軸端部付近の壁面などに焼け面が見られ、底面付近に炭化物が堆積する遺構」という基準により行った。その理由は、削平などにより煙道が発見されない場合、カマド状遺構として認識されないものがあるためである。

カマド状遺構の分類（図3）

A類：地下式の煙道と燃焼室

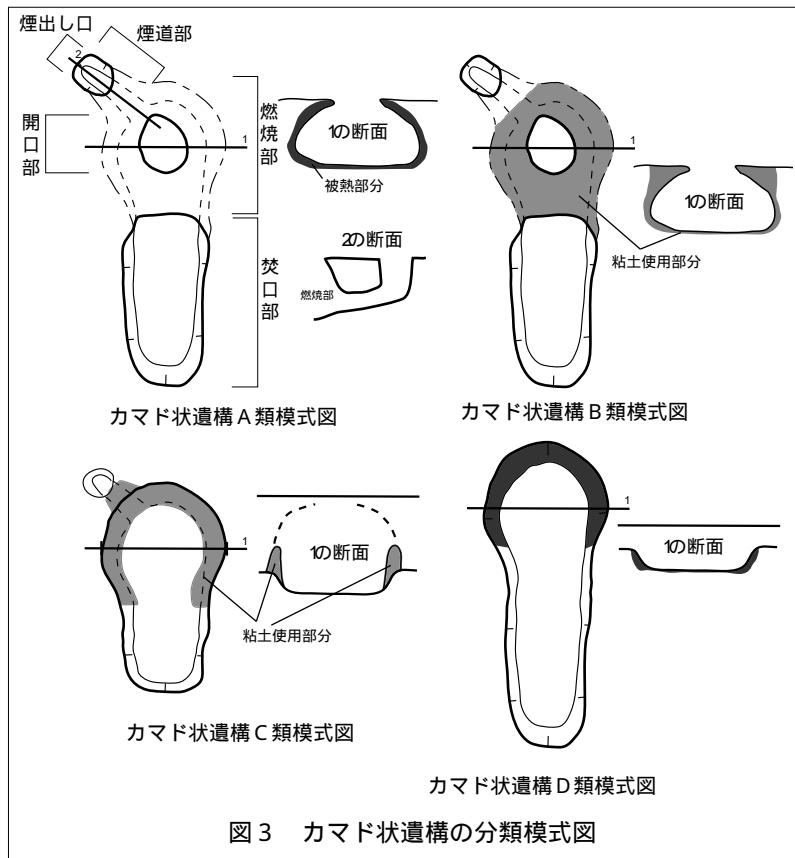


図3 カマド状遺構の分類模式図

を持つもので、三浦分類の「駆り込み式」に相当する。

B類：半地下式の燃焼室と地下式の煙道を持つもので、三浦分類の粘土を使用して構築するタイプに相当する。

C類：B類に類似するもので、燃焼室の掘り込みが浅く、側壁は粘土のみで構築されているもの。焚口部が不明瞭なものが多い。

D類：三浦分類にはなかったもので、燃焼室底面から煙道が延びる痕跡が見られないもので、煙道を持つ可能性が低いタイプである。燃焼室の被熱具合や炭化材の出土状況はA・B類と同様である。

E類：削平などにより分類や検討が難しい物。

3、各分類の分布状況

図1には各分類の分布状況を示した。A類については、ほぼ北東北3県に限られるのが特徴的であり、数量的にまとまる例（1遺跡10基程度～50基を越える遺跡も有り）が見られるのが特徴である。また、B類の数量が少ないので、比定する判断が難しいため多くがA類に分類されていることに起因している。C類は青森県平川市大光寺新城跡や浪岡城に見られるが、遺構内から鉄滓や羽口などの鉄関連遺物が出土する例が多いため、カマド状遺構とはいえない可能性が高い（報告書では小鍛冶炉の可能性を想定）。D類は東北全域に分類しているが、1遺跡での発見数が1～2基程度と、少ないのが特徴である。

4、存在時期について

次に各分類の存在時期について考えて見るが、遺構内からの出土遺物がほとんど無く、あった場合も流れ込みの可能性を否定できないものが多いため、出土遺物としては炭化物のみということになる。したがって遺構の時期を判断する要素としては 放射性炭素年代測定、 遺構同士の重複関係、 陶磁器などの出土遺物から判断される遺跡全体の存続時期、 の3つの面があげられる。 の年代測定が実施されているものを表1に示した（ただし米山（2）遺跡については測定数が多いため概略を記す）。

については今回詳細に検討しなかったので今後の課題としたい。 については表1に示したとおりである。年代測定については米山（2）遺跡・宮田館遺跡などで積極的に行われている。米山（2）遺跡ではA・D類が現在確認されているが、A類は13世紀後半～17世紀初頭までの測定値が得られている。対してD類は12世紀後半～13世紀前半の値が得られている。他の遺跡では、青森県青森市三内沢部（3）遺跡（A類の可能性があるがE類）で14～15世紀、秋田県石鳥谷館跡（D類？）では13世紀中頃、岩手県浄法寺町浄法寺城跡（D類）では13世紀台の値が得られている。次に遺跡の存続期間から見たカマド状遺構の年代についてであるが、A類が発見される遺跡の存続年代を見ると、12世紀台から始まる遺跡もあるが、おおむね14世紀～17世紀初頭に収まる傾向がある。また、D類が発見される遺跡は12世紀～13世紀に収まる遺跡が多いこともわかる。C類に関しては発見例が少なく検討できなかったが、報告書の通り小鍛冶炉と考えるのであれば、用途が限定されるためカマド状遺構の分類からはずす必要も考慮しなければならない。このように現状ではD類の想定存続時期がやや古く、A類がやや後出的である可能性が指摘できる。

5、まとめ

ここでは集成結果から見えたことをまとめ、今後の課題を提起したい。

集成作業により、カマド状遺構は大きく5類系に分類できたが、そのうちE類を除く4類型は用途・分布状況・想定される存続時期に違いがみられた。A類（B類を含む）は北東北に分布し、おおむね14世紀～17世紀の年代が想定された。また、1遺跡での検出数もまとまる例が相当数あり、この遺構の用途や性格を考える上で重要な視点と考えられる。ちなみに私見であるが、米山（2）遺跡や羽黒平（1）遺跡では、当時の生活域と考えられる場所からやや離れた位置から発見されていることは重要である。当時の景観等を含め今後詳細に検討できればと考えている。D類についてはカマド状遺構と呼ぶべきかどうかの問題を残してはいるが、煙道を除く他の状況が非常に良く似ているため敢えて集成に加え、カマド状遺構であると考えた。本類の構造に関しては今後さらに検討しなければならないが、A類よりも古い段階に東北地方のほぼ全域に存在している可能性が高いという事実は何を示すのであろうか。また、検出数が多くまとまる遺跡がほとんど無いこともA類との違いを鮮明にする。

最後に、今後の課題をまとめ、本稿を締めくくることとする。

カマド状遺構の用途・性格の問題：出土遺物は機能に結びつかない可能性が高いが、たとえば燃焼材として具体的の何を用いているかを調査する必要はある。ちなみに米山（2）遺跡や三内沢部（3）遺跡では炭化物層の土壤選別結果から、炭化穀類（イネ・ヒエ・アワ・ムギなど）が検出されている。他の遺跡でも炭化イネは散見されるが、これがどのような状況でもたらされたのかは今後の課題である（青森県2008a・b）。また、用途・性格の問題は遺構単体で考えるのではなく、遺跡の機能や性格も考慮して総合的に判断する必要がある。

遺構の存続時期の問題：これに関しては、年代測定を積極的に行うことである。また、遺構の重複関係を詳細に検討した上で出土遺物や年代測定との整合性があるかどうかも判断しなければならない。

分布・存続時期・系譜の問題：古い段階にD類が広く分布することとA類の北東北集中がつながるのかどうか。つながった場合どのような歴史的解釈がなされるのか。

謝辞 本稿をまとめるにあたり、次の方々にお世話になった。記して感謝する次第であります。

岩田安之 大湯卓二 小田川哲彦 小山浩平 葛西 勲 木村浩一 木村 高 工藤清泰
竹ヶ原亜紀 西沢正晴 藤沼邦彦 丸山浩二 三浦圭介 八重樫忠郎 山崎忠良

〔参考文献一覧〕

- 青森県教育委員会 1974 今別町浜名遺跡・中宇田遺跡・西田遺跡・五郎兵衛山遺跡・五所川原市原子溜池遺跡群発掘調査報告書
青森県埋蔵文化財調査報告書第13集
- 青森県教育委員会 1975 富山遺跡・永泉寺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第21集
- 青森県教育委員会 1976 黒石市牡丹平南遺跡・浅瀬石遺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第26集
- 浪岡町教育委員会 1981 浪岡城跡
- 八戸市教育委員会 1983 史跡根城跡発掘調査報告書 八戸市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 浪岡町教育委員会 1986 浪岡城跡
- 青森県教育委員会 1987 境閣館跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第102集
- 八戸市教育委員会 1989 史跡根城跡発掘調査報告書 八戸市埋蔵文化財調査報告書第31集
- 八戸市教育委員会 1989 赤御堂遺跡 八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集
- 平賀町教育委員会 1990 大光寺新城遺跡発掘調査報告書 第2次調査(1990年) 平賀町埋蔵文化財調査報告書第19集

- 田舎館村教育委員会 1991 前川遺跡発掘調査報告書
 青森県教育委員会 1993 高野川(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 153集
 青森県教育委員会 1993 野脇遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 149集
 青森県教育委員会 1994 内真部(4)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 158集
 青森県教育委員会 1995 松山・羽黒平(1)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 170集
 青森県教育委員会 1995 水木館遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 173集
 八戸市教育委員会 1996 八戸市内遺跡発掘調査報告書 8(根城岡前館 31・根城岡前館 35・根城下町)八戸市埋蔵文化財調査報告書第 65集
 七戸町教育委員会 1996 史跡七戸城跡北館 七戸町埋蔵文化財調査報告書第 14集
 七戸町教育委員会 1996 貝ノ口遺跡 七戸町埋蔵文化財調査報告書第 15集
 川内町教育委員会 1996 鞍越遺跡
 青森県教育委員会 1997 田名部館跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 214集
 七戸町教育委員会 1998 貝ノ口遺跡 七戸町埋蔵文化財調査報告書第 22集
 鮫ヶ沢町教育委員会 1998 種里城跡 鮫ヶ沢町文化財シリーズ第 13集
 平賀町教育委員会 1999 大光寺新城跡 平賀町埋蔵文化財調査報告書第 24集
 平賀町教育委員会 1999 大光寺新城跡 平賀町埋蔵文化財調査報告書第 26集
 青森県教育委員会 2000 山下遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 274集
 平賀町教育委員会 2000 大光寺新城跡 平賀町埋蔵文化財調査報告書第 27集
 平賀町教育委員会 2001 大光寺新城跡 平賀町埋蔵文化財調査報告書第 29集
 青森県教育委員会 2002 宮田館遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 322集
 青森県教育委員会 2003 宮田館遺跡・米山(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 344集
 七戸町教育委員会 2003 史跡七戸城跡北館 七戸町埋蔵文化財調査報告書第 41集
 東通村教育委員会 2004 浜尻屋遺跡
 五戸町教育委員会 2005 中市館跡 馬場遺跡・八益久保(2)遺跡・門前平遺跡 五戸町埋蔵文化財調査報告書第 6集
 青森県教育委員会 2007 米山(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 433集
 青森県教育委員会 2008a 三内沢部(3)遺跡・石江遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 458集
 青森県教育委員会 2008b 米山(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第 456集
 岩手県教育委員会 1980 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 - (柳田館遺跡) 岩手県文化財調査報告書第 53集
 岩手県教育委員会 1980 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 - (北館遺跡収録)
 岩手県教育委員会 1981 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 - (大瀬川A~C遺跡) 岩手県文化財調査報告書第 57集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 1985 高玉遺跡発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 93集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 1986 万丁目遺跡発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 102集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 1986 大日向・遺跡発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 100集
 平泉町教育委員会 1994 平泉遺跡群発掘調査報告書(毛越・遺跡収録) 岩手県平泉町文化財調査報告書第 40集
 岩手県教育委員会 1999 岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成10年度)(西長岡・長谷田遺跡・西前田遺跡収録) 岩手県文化財調査報告書第 105集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 2001 台太郎遺跡発掘調査報告書(18次) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 369集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 2003 泉屋遺跡発掘調査報告書(16・19・21次) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 399集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 2003 細谷地遺跡発掘調査報告書(4・5次) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 414集
 浄法寺町教育委員会 2004 浄法寺城跡
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 2005 中半入遺跡発掘調査報告書(4次) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 465集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化材センター 2006 高木中館遺跡発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 471集
 一戸町文化財愛護協会 1981 一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書(一戸城跡収録) 一戸町文化財調査報告書第 2集
 秋田市教育委員会 1979 下多野遺跡
 秋田県教育委員会 1979 塚の下遺跡発掘調査報告書 秋田県文化財調査報告書第 61集
 秋田県教育委員会 1981 杉沢台遺跡 竹生遺跡発掘調査報告書 秋田県文化財調査報告書第 83集
 秋田県教育委員会 1984 東北縦貫自動車道発掘調査報告書 -妻の神・遺跡・乳牛平遺跡・秋田県文化財調査報告書第 107集
 秋田県教育委員会 1984 東北縦貫自動車道発掘調査報告書 -妻の神・遺跡・秋田県文化財調査報告書第 108集
 鹿角市教育委員会 1989 当麻館跡発掘調査報告書 鹿角市文化財調査資料 37集
 秋田県教育委員会 1990 竜毛沢館跡発掘調査報告書 秋田県文化財調査報告書第 188集
 秋田県教育委員会 1991 国道103号改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書 -餌釣遺跡・秋田県文化財調査報告書第 210集
 秋田県教育委員会 1998 石鳥谷館跡 秋田県文化財調査報告書第 279集
 秋田県教育委員会 2001 北遺跡 秋田県文化財調査報告書第 315集
 仙台市教育委員会 1981 鴻ノ巣遺跡 仙台市文化財調査報告書第 32集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2001 高瀬山遺跡(SA) 第2・3次発掘調査報告書 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 94集
 宮城県教育委員会 2003 中野高柳遺跡 宮城県文化財調査報告書第 201集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2007 上敷免遺跡 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 159集
 多賀城市教育委員会 1990 新田遺跡(第四・十次調査報告) 多賀城市文化財調査報告書第 23集
 郡山市教育委員会 2005 大崎館跡
 三浦圭介 1987 第3節 かまど遺構について『境関館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 102集
 川口潤 2003 第1節 所謂カマド状遺構に関する新視点(展望)『宮田館遺跡・米山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 344集
 佐々木浩一ほか 1999 青森県中世遺跡の遺構変遷試案 -小沢館、境関館、野脇遺跡、中崎館 -『八戸市博物館研究紀要 第14号』八戸市博物館